

## 救いの三段階

### < 1 > 義 認

義認とは、信仰により神との関係が正され、罪を赦されることで、福音を受け入れた瞬間に起こります。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K	創世記	15:6 <u>アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。</u>	
S	ローマの信徒への手紙	4:3 聖書には何と書いてありますか。「アブラムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」とあります。	
S	ローマの信徒への手紙	4:23 しかし、「それが彼の義と認められた」という言葉は、アブラムのためだけに記されているのではなく、	
S	ローマの信徒への手紙	4:24 わたしたちのためにも記されているのです。わたしたちの主イエスを死者の中から復活させた方を信じれば、わたしたちも義と認められます。	
S	ヤコブの手紙	2:14 わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。	
S	ヤコブの手紙	2:21 神がわたしたちの父アブラムを義とされたのは、息子のイサクを祭壇の上に献げるという行いによってではなかったですか。	
S	ヤコブの手紙	2:22 アブラムの信仰がその行いと共に働き、信仰が行いによって完成されたことが、これで分かるでしょう。	
S	ヤコブの手紙	2:23 「アブラムは神を信じた。それが彼の義と認められた」という聖書の言葉が実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。	
S	ヤコブの手紙	2:24 これであなたがたも分かるように、人は行いによって義とされるのであって、信仰だけによるものではありません。	

※上記の聖句は、[聖書研究ソフト](#)「聖書 Navi Active」により検索、抽出しています。

#### [補足] エフェソの信徒への手紙 2 : 10

なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

#### 【参考】福音の三要素

1. キリストが私たちの罪のために十字架で死なれたこと、
2. 死んで墓に葬られたこと、
3. 3日目に復活されたこと。

→ローマの信徒への手紙 1 : 17

福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。

「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

→コロサイの信徒への手紙 1 : 23

ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

※福音：ギリシア語「euaggelion」（→エウアンゲリオン＝「eu（よい） + aggelion（知らせ）」）

＝「よい音信 good news」＝イエス・キリストによってもたらされた人類の救いと神の国に関する喜ばしい教え。

## <2>聖化

聖化とは、神の業である義認の結果、罪から解放される、つまり、私たちがキリストに似た者になる（信仰によってキリストが私たちの内に生きてくださる＝内住のキリスト：Christ in us）ことです。

私たちは信仰によって義とされ、罪を憎む者に変えられているにもかかわらず、私たちの体の内面には罪の性質が深く残っています。パウロは、「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです（ローマの信徒への手紙 7：15）」と、聖化を求める人の苦しみについて記しています。さらに、同 8 章で、「従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません」と、聖霊によって内面が聖化される喜びについても記しています。聖化も、義認と同様に信仰により、神の賜物（神の恵み）によって実現します。

→ローマの信徒への手紙 6：22

あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です。

## <3>栄化

聖化の次の段階が、栄化です。

(1)テサロニケ信徒への手紙 I 4:16~17

すなわち、①合図の号令がかかり、大天使（ミカエル）の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、②キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し（栄光の体に蘇えり）、それから、③わたしたち生き残っている者が（生きたまま栄光の体に変えられ→**栄化**）、④空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲（＝栄光の雲→「シャカイナ・グローリー」※1という特別な主の栄光の現れを表している）に包まれて引き上げられます（→一挙に、一緒に、引き上げられ一携え挙げられ[＝携挙]—ます）。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。

(2)コリントの信徒への手紙 I 15:51~53

わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません（→イエスが再び来られる時、生きているそのまま天の霊的な体へと変えられる者たちがいるとパウロは教える）。

わたしたちは皆、今とは異なる（朽ちない）状態に**変えられます**（→**栄化**：栄光の姿、救いが完成した状態）。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、⑤一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは（血肉の体でない、朽ちない体に）**変えられます**。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることとなります。

※1：シャカイナ・グローリー

神の臨在が人間に知覚できる現象となって現れたもので、光、火、煙、雲、雷、雹、角笛の音などがあります。「シャカイナ」の語源はヘブライ語の「シャカン（隣人の間に住む）」、そして英語の「グローリー（栄光）」で、この2つの言葉を組み合わせて、「神の臨在に伴う栄光」という意味です。

聖書に出てくるシャカイナグローリーの例としては、エジプトを脱出したイスラエルの民を荒野で導いた「雲の柱と火の柱」（出エジプト 13：21~22）や、モーセがシナイ山で神から律法を授かる時に現れた「雷鳴と稲妻と厚い雲、角笛の音、火、煙」（同 19：16~20）などがあります。